

第3回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、平成27年度 第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について次のとおりお知らせします。

1. 日時

平成27年12月11日(金曜日) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

道内の木材需給状況や各委員の発言を踏まえ、現時点で国有林材の供給調整を行う必要はないとの意見集約が得られた。

4. 主な意見等

- トドマツについては、ホワイトウツドの製品在庫が10月上旬あたりから、かなり減少している関係もあり、メーカーや地域の差は多少あるがトドマツの材が動くようになった。10月、11月、12月も動きは良い状況が続いている。ホワイトウツドの、今後の入荷の状況次第だが今のところ順調な動き。ただ冬期の不需要期になると、どうなるのか不安はある。
- トドマツの産業用資材については、昨年並みの荷動きは有るがそれ以上伸びていない状況である。取引先からはオリンピック、再開発、復興等を期待していたが人手不足の影響が出ているためと聞いている。見ている限り、関東も東北も建築・建設関係が相当数動いている状況ではあるが、それに対して物はあまり動いておらず、当面必要な分だけは動いている状況。建築用資材については、輸入材の在庫が非常に減っている中で欠品しているものもある。道内ではトドマツ羽柄材のKD材を中心に需要があるとみている。また、再来年の消費税UPに向けて建築関係では勝負の時期が来るとしており、輸入材が少ない中で道産材、国産材のある程度の準備は必要と考えている。現在は供給調整の必要はないが今後の状況を注視し、必要に応じて速やかに対応して頂きたい。
- 合板向けのカラマツについては、夏場に構造用の合板が、だぶついて各合板メーカーで生産調整を行うなどして価格は正常化され、製品在庫も少なくなってきた。ここにきて構造用の合板を作りたいと東北からのカラマツの需要が増えておりカラマツについては、多少供給より需要の方が勝っていると感じている。一方、フロア合板向けのトドマツは、夏から見ると東北からの需要はここにきてトーンダウンしている。
- カラマツの製材については、11月以降工場によって多少のばらつきはあるが、トータルで考えると少し上向きになっていると考えられる。残業をしていない会社もあるが、当社は8・9月と残業がなかったが、10月以降受注もあり残業体制で仕事をしている。

- 原材料については、カラマツとトドマツの価格差がなくなってきたと思う。製紙原料に使用されている場合は、カラマツとトドマツに差がかなりあったが、ここに来て、その差がなくなってきたと思う。
- チップ原料については、針葉樹は前年並みの在庫状況。広葉樹については、前年比2割程度落ち込んでおり相変わらず不足している在庫状況。また、チップの輸送でトラックが足りないという状況が見られる。
- バイオマス発電施設が、年明けに本格稼働となるが燃料については当初、全量北海道で調達したいと考えられていたが難しい状況。丸太の集荷の内訳については4分の3は道有林を含む民有林材、4分の1は国有林材を集荷している。足りない分は、道外からチップの移入と輸入したPKSで補う予定だが今後、まずは社有林の増伐を計画している。
- 材の流通関係については、特段支障のある状況は見られなく比較的順調に流れている。ただ、この先12月から来年の3月にかけて地区によっては輸送のトラックの不足が出てくると懸念している。